謹賀新年
2009年ー元旦
医療法人財団 東京勤労者医療会

くらしと健康

発行 医療法人財団 東京勤労者医療会 1部60円
〒151―0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1―30―7
TEL(3404)7661
E-mail address　yo_sosiki@tokyo-kinikai.com
友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

患者さんの安心のために

はりきる外来看護チーム

代々木病院の外来患者さんが安心して地域で暮らしていけるよう支援している外来看護チームの日常活動の一端を、井口敦子看護師長に聞きました。

「ことしもよろしくおねがいします」

代々木病院のある渋谷区は人口約20万人、75歳以上の方は約1万8000人です。日中は高齢者のみの生活をしている方が多くいます。日常生活はなんとかやっているけれど、薬の飲み忘れや、通院日を忘れてしまい、治療が中断されてしまう方も少なくありません。

娘さんや息子さんは一緒に住んでいても仕事が忙しく、親の病気の状態を正しく理解できていない場合も多くあります。また、たまに会うだけの関係では、親の認知症の度合いなどなかなか把握できません。

代々木病院の外来看護チームでは、通院日をたびたび忘れてしまう患者さんの情報を集め、ご家族の協力を得ること、また、患者さんのご自宅を訪問することから始めています。

診察日ごとの電話かけや、残薬を持参していただいて薬の飲み忘れのチェックも行っていますが、外来だけではやりきれない現状です。日中、ヘルパーさんや訪問看護師が入っている方なら内服の確認をしてもらえます。ご家族と同居している方なら、主治医と相談して昼の薬を中止して朝・夕の内服確認だけはご家族にお願いすることができます。また、薬の一包化を依頼している薬局に日付けまで記入してもらうなど、患者さんのおかれている状況によりいろいろと工夫しています。

訪問途中で出合ったリハビリ中の入院患者さん

しかし、日常生活が困難になってきても、どうしても他人を家に入れたくないという方や、身体的介助はあまり必要としないが、認知症・物忘れのある患者さんなどは、直接訪問や介護保険につながらない場合も多いのが現状です。

そんな患者さんも含め、外来では朝会で日常の中で気になる患者さんを報告し合い、外来看護師全員で情報を共有するよう心がけています。そして、時間をかけてかかわりを続け、ときには地域の民生委員の方や地域包括支援センター、渋谷区のケースワーカーなどにも働きかけて地域のなかで見守っていただくようお願いする場合もあります。

まだまだ十分とはいえませんが、代々木病院の外来患者さんが安全にそして安心して住み慣れた地域で暮らしていけるよう、積極的に地域社会に発信し、地域の多くの人たちと手を携えていきたいと思っています。

「あっ、そこのお宅かな」

後期高齢者医療制度の廃止を求める12・14東京大集会

後期高齢者医療制度の廃止を求める12・14東京大集会が08年12月14日、日比谷野外音楽堂で開かれ、大雨のなか約5000人が参加しました。写真は、集会アピールを掲げる代々木健康友の会幹事さんらと職員。

手術台

日記を読んでみた。〈あっという間にまた正月が来てしまった、いったい、この一年何をやっていたのだろう〉と思ったからである。読んでみるとさまざまな〝歴史的〟事件が起こり、自分もまた色いろな事をやり、怒り、喜んでいる。あっという間だったが決して無為に過ごしていたわけではないのである▼気にかかったのは「日記」ではなく、まとめ書き・週記（？）になっていることである。就床前、こころ静かに日記を書く時間も習慣もなくなっている。今年もたぶん同じ事になりそうである。しかし、今年こそ、時々日記を読み返す機会を作ろうと思う。日記は他人のために書くものではない。読まない日記なんて書く必要はない。読まないから「光陰矢の如く」流れさるのであろう▼誰にとっても、立ち止まって、時どき自分を見つめ直すことが、生きる上で、今一番必要とされる時代になって来ているのではあるまいか。（ま）